

バレエへの参与とイメージの関係における研究

A study about the relationship between involvement and image of ballet

1K05B128

指導教員

主査 木村和彦先生

高橋 笑部

副査 杉山千鶴先生

【緒言】

女の子の習い事として安定した需要のあるバレエだが、最近のバレエを取り巻く環境は変化しつつある。例えば、戦後日本のバレエ界を築いた舞踊家たちの引退や、フィットネスクラブなどのバレエを習う場の増加などがある。こうした変化を迎える日本バレエ界において、バレエを長年辞めずに続けられる人には、その動機となるイメージが存在するのではないか。イメージの変遷や参与形態による特徴を捉え、生涯を通して楽しく行う事の出来る環境作りについて考察する。

【研究方法】

一調査概要一

1) 対象

- ・早稲田大学保健体育科目「バレエ基礎・応用」において受講生 80 名
- ・kei's ballet (千葉県舞踊協会所属バレエスタジオ)において 130 名

2) 方法:質問紙調査

3) 時期:2008 年 7 月 16 日および、2008 年 8 月下旬

4) 測定方法

質問項目については選択肢法、具体的ダンサーやバレエ団の好みについては自由記述法、イメージ尺度については SD 法を用いた。

一分析方法一

対象を“母親”“継続者”“初心者”“再開者”に分類した。先行研究とプレ調査により構成された 21 個の形容詞対による尺度を使用しイメージ分析を行った。統計処理および分析には

SPSS15.0J for Windows を用いた。因子分析を行った結果、参与イメージについては「好感性因子」「審美性因子」「身体性因子」「発展性因子」「構成性因子」「難易性因子」「印象性因子」の 7 因子、鑑賞イメージにおいては「視覚性因子」「審美性因子」「難易性因子」「創造性因子」「年齢性因子」「好感性因子」「性差性因子」の 7 因子が抽出された。

【結果と考察】

因子抽出後の参与形態別特徴として、参与イメージ因子「印象性因子」に有意な差が出たが、イメージ尺度による特徴と等しく、それ以上のものが発見されなかった。鑑賞イメージについて、継続者は「視覚性因子」における濃密感と、「審美性因子」における美的感が高い。経験者は鑑賞に対し、見た目でイメージされる動きの特徴や、身体形態を重視してし、バレエ鑑賞が美しいものであると感じている。初心者は「難易性因子」における難行感と、「創造性因子」における発展感が高い。初心者はバレエ鑑賞の際、自らとの差を感じ、鑑賞に対して難しく複雑なもの観ている感覚がある。その反面、大きな作品を観る事で芸術的なイメージを持っているとも考えられる。

継続意思への影響を見るために、得られたケース別因子得点を独立変数、継続意思を従属変数として重回帰分析を行った。その結果、参与イメージ因子「好意性因子」について $p<0.01$ 、「身体性因子」について $p<0.05$ の優位な影響が認められた。鑑賞イメージ因子「好意性因子」についても $p<0.05$ の有意な影響が見られた。

【結論】

参与イメージ因子においても、鑑賞イメージ因子においても好意性因子の明快感が継続意欲と相関があることがわかった。つまり、現在バレエを実際に行っていない人でも、鑑賞において好意性因子の強い人には参加への働きかけが有効である可能性が高い。また、参与イメージ因子における身体性因子の軽量感との間に相関があったことから、すでにバレエ教室やスクールへの参加がある人に対しては身体的変化を感じられるように働きかけることで継続意欲は高まることが明らかとなった。

【今後の展望】

今後は、本研究の調査を行った人に追跡調査を行い、現在の継続意欲と数年後のバレエへの関わり方について研究を継続して行う。数年後のバレエへの参与形態と以前持っていたイメージの比較や、初心者と再開者を追跡することで求めている環境の違いを明らかにしたい。また、本研究では現時点でバレエに何らかの関わりがある人しか調査ができていない。これを、舞踊のジャンルを広げ、舞踊だけでなく音楽・演劇等に調査対象を広げることで潜在的ニーズを持つ集団へのアプローチを行うことが出来る考える。